■山上憶良 官人、歌人。遣唐使一員として則天武后に謁見。不比等没で飛躍、筑前時代に現代に通ずる生活・社会詠の傑作。

やまのうえのおくら

百濟滅亡・・・660＝ 生。孝昭天皇の皇子の後裔と称する皇別氏族と考えてよいが、渡来系の人物とみなす説もある。

白村江の戦い・663＝3歳：

中臣鎌足没・669＝9歳：

壬申の乱・・・672＝12歳：

・・・・・・678＝18歳：

天武天皇没・686＝26歳：

・・・・・・687＝27歳：

藤原京遷都・694＝34歳：

高市皇子謀殺 696＝36歳：

__壮年時には、詩人川島皇子や歌人柿本人麻呂、長意吉麻呂らとの交友があったかと思われ、

大宝律令・・・701＝41歳：__学識を買われてか、無位ながら、粟田真人を執節使、高橋笠間を大使とする遣唐使の少掾となり、入唐。

持統天皇没・702＝42歳：__洛陽で則天武后から謁見を賜った。

__在唐中の故国を思う歌'いざ子ども早く大和へ大伴の御津の浜松待ち恋ひぬらむ'が「万葉集」にある。

__帰国したと推定される。

・・・・・・704＝44歳：

・・・・・・705＝45歳：

平城京遷都・710＝50歳：

日本書紀始・714＝54歳：正六位下から従五位下に昇り、

光明子入内・716＝56歳：伯耆守、

藤原不比等没 720＝60歳：

長屋王右大臣 721＝61歳：__山田史三方らとともに退朝の後、東宮(首皇子のちの聖武天皇)に侍して晴れの場に。憶良の編著「類聚歌林」は、この時期のものと考えられている。

百万町歩計画 722＝62歳：__東宮の命に応じて'天の河相向き立ちてわが恋ひし君来ますなり紐解き設けな'という七夕の歌を作り、

三世一身法・723＝63歳：

聖武天皇即位 724＝64歳：__左大臣長屋王宅で'ひさかたの天の河に船浮けて今夜か君が我許来まさむ'という七夕の歌を詠んだ。

・・・・・・725＝65歳：__病気になったらしく、千年も命がありたいと長寿を願う歌。

行基山崎橋・726＝66歳：__この頃、*筑前守赴任。風流の大宰帥大伴旅人を迎えて、"筑紫歌壇"とも称すべき新風の文雅の交わりの中で世間を主題とする秀作を数多く詠む。

渤海交流始・728＝67歳：__大宰帥大伴旅人の妻の死に際して、漢文の序をつけた「日本挽歌1首」と反歌5首を作り、また「惑える情を反さしむる歌1首」と反歌1首、「釈迦如来、金口に正に説きたまはく」云々の序のある「子等を思う歌1首」と反歌1首、「世間の住り難きを哀しむる歌1首」と反歌1首を詠んだ。

長屋王の変・729＝69歳：__七夕歌。

・・・・・・730＝70歳：__筑前国司として'天さかる郡に五年住ひつつ都の風習忘れにけり'など私懐を述べる歌を作っている。

__そのほか筑前守在任中の作歌は「万葉集」に数多くみえる。その中で著名なのが短歌1首をあわせた「貧窮問答の歌1首」である。

遣唐使9・・・732＝72歳：__この頃、筑前守の任を終えて帰京、

風土記完了・733＝73歳：__自宅で遣唐大使多治比広成に対面し、「好去好来の歌1首」と反歌2首を贈った。まもなく没したらしい。